

村山史世（地域環境政策） 坂西梓里（社会連携型PBL）
Jonathan Lynch（International Communication）

研究の背景

私たちはSDGsの自分事化の研究と地域課題の解決を志向した学びの社会実装を行ってきました。具体的には、SDGsグリーンマップの開発や相模川での親子向け環境学習、相模原市緑区青根の水田を拠点とした生物多様性の把握と環境まちづくり、などです。

これまでの実績に基づいて、私たちはSDGsを活用しながら市民や行政の地域課題に取り組む研究+教育・学習+社会実装の総合的活動である「サイエンス・ショップ」を行います。

※「サイエンス」は学問一般、「ショップ」は工房を意味します。

アプローチ

サイエンス・ショップでは、クライアントである市民や行政と、大学・学生が対等な立場で、それぞれの主体性を尊重しながら研究・実践を行います。クライアントも積極的に研究・実践に参加する「参加型の研究」と「研究成果の公開・共有」を目指します。

市民や行政との情報交換や交流、地域課題の把握を目的として、SDGsに関連したコミュニティ・カフェやミニFM放送の企画・実施を学生主体で行います。

期待される結果

- ・ジェネラリストとして重要となる広い視野と総合的な思考を獲得できます。
- ・SDGsを通して地域課題を見ることで、課題の複雑な構造を把握し、解決のための方策を構想することができます。
- ・大学外の市民や行政など多様な人々とのネットワークを獲得できます。
- ・研究成果を社会と共有できます。

現状とこれから

- ・SDGsグリーンマップを活用した座間市や町田市でのワークショップ、サイエンスアゴラ2022への出展、相模原市地方自治研究センターと連携したデジタル・マッピングとまちづくり活動、神奈川県公園協会と連携した公園でのワークショップ。
- ・さがみはら産業創造センター（SIC）と連携しながら、活動の継続性を視野に置いた事業計画や組織のあり方を検討することで、アントレプレナーシップや社会的起業の学びも模索します。
- ・学生のみなさんからの提案も歓迎します。

